

# 真砂小学校区コミ協だより

第17号

平成26年10月1日

発行:真砂小学校区コミュニティ協議会

編集:真砂小学校区コミュニティ協議会広報部会

## 新会長に大谷勇氏

(松海が丘第二自治会)



### 会長就任に当たって

日頃皆様には真砂コミュニティ協議会の運営にご協力をいただきましてまことにありがとうございます。

当コミュニティ協議会の福祉部会長を引き受けた時もそうでしたが、今回も前任者の残任期間を務めることになりました。コミ協の役割については、昨年副会長を引き受けた時に述べさせていただきましたので今回は省かせていただきます。

本年度の活動は例年各部会が開催する各種の事業の

### 「地域の宝物」発掘を

ほか、当地域は十五ある西区のコミュニティ協議会の中でも高齢化率が一番高く(平成26年3月31日)年少人口の割合が低い状況にあり、地域の活力の低下が懸念されるため、「この地域に住んでよかった」と言える個性的で自立したまちづくりが喫緊の課題ではないかと考え、新たに「地域活性化計画と地域の宝物発掘事業」を企画し、計画づくりと地域の宝物の発掘又は創作を視野に入れた事業化に向けて取り組んでいるところです。

前会長の「和と協力」をベースにした活動の精神を、大切に残任期間を務めたいと思っておりますので皆様方の更なるお力添えを宜しくお願い致します。

### 真砂コミ協「平成26年度総会」開催される

平成26年5月24日(土)真砂会館に於いて西区による区政懇談会(3頁に詳報終了後、眞島幸平西区長、真砂小学校有田一正校長、高田彰子西区地域課々長、山本幹彦振興係長等々のご来賓を頂き平成26年度総会が開催されました。

委任状を含め出席者は33名で89%の出席率でした。真砂3丁目藤田正勝氏が議長に選出され議事に入りました。

各部会から25年度の事業報告、会計報告、会

計監査報告が行われ、続いて26年度事業計画(案)、予算(案)が審議されました。佐野赳夫前会長の退任による後任会長選任で、会長に大谷勇(前副会長)、副会長に佐藤昭(真砂1丁目)、福祉部会長に前川倫子(前福祉部会副部会長の役員改選(案)等が提案されました。全議案で承認され滞りなく平成26年度総会は終了しました。

《予算(概要)は2頁に記載》

### 副会長就任にあたり

佐藤 昭  
(真砂1丁目自治会)

この度、真砂小学校コミュニティ協議会の副会長に選出された佐藤昭と申します。自治会長の4年を含めて地域活動は10年程度で経験は浅いのですが当地域の安心・安全の一助になればと思いい、その機会を与えてくださった皆様に感謝いたします。

顧みれば新潟地震当時は横七番町に住んでいましたが、液状化で泥水が道路から噴き出し、津波と重なり家の前で腰の近くまで水に浸かりました。

そこで被害の少なかったこの地を選んだのです。畑と松の木が多い静かな町でした。濃い海原に砂浜・木々の緑、この自然の豊かさを次世代に残し続けたいと思いい努力致す所存です。



平成26年度真砂小学校区コミ協予算（概要）

項目	金額	摘要
地域活動補助金	1,665,000	市補助金
運営助成金	200,000	市補助金
運営自己資金	63,344	内規より
事務所借上補助金	510,000	事務所光熱費含
内規予算	685,882	前年度繰越金、会員会費等
計	3,124,226	

項目	金額	摘要
地域活動補助金	1,717,644	各部会の活動費
運営助成金	210,000	消耗品、通信費等
運営自己資金	510,700	事務所光熱費含
内規予算	685,882	事務、交通、会議、役員活動費等
計	3,124,226	

平成26年度各部会の活動補助金額

福祉部会	105千円
青少年健全育成部会	200千円
文化部会	35千円
スポーツ部会	87千円
交通安全・防犯部会	50千円
生活環境部会	400千円
広報部会	378千円
防災部会	10千円
コミ協事業 地域活性化と地域の宝物発掘	200千円

区政懇談会

平成26年5月24日(土)午後、真砂会館に於いて、真島西区長、真砂小学校長井教頭、西区各課より参加いただき、意見交換会が開催されました。

① 真砂小学校体育館改築について

文部科学省は校舎の前面改築ではなく部分的改修により耐久性を高めるとしているようだが、真砂小学校の体育館はどうなるか？  
予定通り体育館の改築は行う。また

真砂コミュニティハウスの整備を含めたものになる。

② ひまわりクラブ保育対象拡大について

27年度より保育対象が現在の3年生から6年生まで拡大するようだが、収容スペースは大丈夫か？

他校の例(山田小学校)からして、保育対象を拡大しても多くの増加は見られなかった。

また、真砂小学校のひまわりクラブの利用面積は他クラブより余裕があり規定をクリアしている。

③ 通学路の安全対策

グリーン帯の設定を真砂小学校区域全体の危険地帯に実施できないか？今年度予算では当初要請区間に設置を検討している。全範囲については西署、学校、建設課、教育支援センターで検討中。

④ 空き地対策(除草について)

昨年度区民生活課から土地の管理者に連絡・対応してもらったが、今年も継続的対応を要請。(真砂2丁目自治会)現在、区で確認しているのは7か所(真砂2)と思うが、詳細要望については区民生活課岩瀬課長まで連絡して欲しい。

⑤ 要援護者の取組、事例開示など

自治会の中では個人情報開示できない状況下で、要援護者支援をどのように対処すればいいか？

他の地域では各班長、防災委員に開示している例とか、入舟地区の様に中学生が要援護者の面倒を見ている例もある。

⑥ 国道402号線「恒久飛砂対策」

年を重ねるたびに状況は悪化している。従来と同様の対策では改善に繋がらないと思われるが今後の対策は？

海岸の管理者(国、県)と大学を含めて対策を練っていききたい。今年度中にどうするかを決めたい。それに応じて対策を考慮したい。

⑦ 空家の危険対策について

ブロック塀や外壁が崩れかかり、地震や台風により倒壊する危険がある空

家の対策は？

色々な角度から検討している。新潟市でも「建築物の安全性確保についての条例」を9月中に出す予定。施行についても一定の周知期間終了後から実施となっている。

最悪の場合は市で応急処置が出来る内容となっている。また空家リホーム助成制度の利用も考えたかどうか？

⑧ 火災予防について

(西消防署からのお願い)  
西消防署石川市民安全課長「火災の少ない西区、放火のない西区、安心・安全な暮らしづくり」の標語で西区の火災状況を説明。住宅用火災警報器の設置促進。(人命保護のため)



# 「土砂災害防止法」に基づく 説明会

日時：平成26年9月10日(水) 19時～

場所：真砂会館

主催：新潟県地域振興局・新潟市

司会：地域整備部 治水課 山田

応援：新潟県建設技術センター

田中、小田

西区：建設課

出席者：45名前後

加茂、杉野

## 指定地区

真砂コミ協範囲内では5か所(松海が丘南、松海が丘東、松海が丘西、真砂町、寺尾台)地区が指定されている。

## 土砂災害警戒区域などの範囲とは

高さが5m以上、傾斜度30度以上の高所(崖)がある範囲を言う。



土砂災害防止法による指定箇所は新潟県内に1万ヶ所近くあり、ハード面の対策工事等も行っているが予算上を含め時間がかかっている。

従って今回は、指定区域の説明とソフト面の避難を中心とした人的被害防止対策(土砂災害防止法)を中心に行っている。

詳細は、インターネット新潟県ホームページ「新潟土砂災害」を開いて調べて欲しい。

## 質疑応答では

- ① ハード面の対策を急いでほしい  
↓県内1万ヶ所以上ありすぐには対応は出来ない。
- ② 指定地域の土地評価は?  
↓土地評価額は災害指定範囲で変わることはない。

③ 高さ5m、傾斜度30度はどうして決まったのか?  
↓この数値内での災害発生範囲が90%以上の確立になっていることから。

④ 市は雨量40mm/時以上と言う事を避難指示の基準にしていると思うが?  
↓市は県情報、気象庁情報等を参考にしているが、なお、土砂の流動性情報等も研究している。

《防災部会取材》

## コミ協 研修会開催

平成26年6月22日(日)坂井輪コミセンで地域課振興係山本係長の講演により21名の参加者で開催、4グループに分かれて意見交換、まとめを発表した。

### 発表内容(発表順)

#### 第1グループ

・発表者：武田征四郎(日和が丘自治会)  
高齢化(78才以上)の自治会長が多い。飲み会など気楽な会合では自由な意見が多く出る。問題点は集合住宅居住者で挨拶一つ出来ない人が多い事。役員には若い人、女性を多く登用したいがなかなか難しい。自治会内の仕事の分担化を図る。

#### 第3グループ

・発表者：八子聡(晴海ヶ丘自治会)  
女性の活用を率先し自治会役員に任ずるようにする。これには自治会長の積極的に忍耐強い説得工作が必要と思う。  
女性(子供に手が掛らなくなった方)は物事をよく知っている。過去の仕事や活

動も把握出来れば一番良い。世代間交流も十分に心がける方が良い。

#### 第2グループ

・発表者：大谷勇(松海が丘第2自治会)  
現状は意外にスムーズに運営されているという自治会が多かった。若い人たちから参加してもらうためには育成部(若い女性が多い)等の協力、飲み会にケイション(若い男性)も有効。

#### 第4グループ

・発表者：片岡弘(小針銀座自治会)  
若い世代の取り込み策を講じたいがなかなか取り込むチャンスがない。

### 山本講師のまとめ

第1グループ：PTA委員の活用、第3グループ：女性の活用、第2グループ：育成部。飲み会にケイションの活用、第4グループ：若年層の取り込み。  
大谷会長の「地域活性化計画と地域の宝物発掘」の協力依頼あり、懇親会を行って終了。



# 「頑張ろう 東北 郡山」

## 視察研修会

生活環境部会・防災部会

6月27日(金)表題の視察研修会が実施されました。

これは区の地域活動助成金を受けた生活環境部会・防災部会共催による26年度のコミ協事業です。17名参加のバスによる日帰り視察でした。

視察は福島県郡山市の富岡町避難所仮設住宅(おたがい様センター)を訪ねて富岡町社会福祉協議会の方の説明と、同じく富岡町の避難生活をしている方「語り部」の二人からのお話しを聞きました。

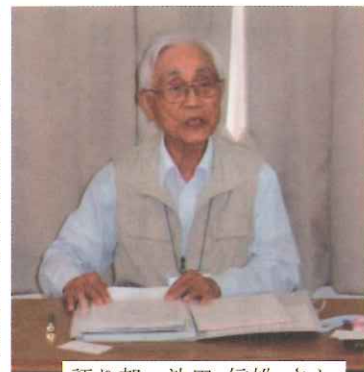
富岡町社会福祉協議会の方からの説明



**富岡町の概要** (平成23年3月11日現在)  
 人口 6301人 5831世帯  
 高齢化率21.6%  
 津波の高さ21.1m(県下一番の高さ)

### 避難の現実

富岡町の被害状況(地震と津波・原発事故)は私達マスコミ報道の範囲しか知らない者にとっては想像を遥に超えるものでした。



語り部 池田 信雄 さん

とりわけ原発事故からの避難は.....

3月12日「原発が危ないから逃げなさい」という漠然たる指示で、避難を開始したが一本道で車の列ができて5kmを5時間30分かかったこと。

その際誘導の警察官は放射能防護服に防毒マスクをしていたこと。

避難所に(川内村)4日間滞在、この間一切の救済物資なし、放射能が怖くて物資を届けてくれなかったこと。



語り部 三瓶 宏子 さん

### 放射線モニタリングを視察午後後の視察

その後、福島県農業総合センター(郡山市日和田)で「農業水産物の放射線モニタリング」の実際を視察しました。一台2千万円の検査機械を6台設置、対

### この視察から得たことは

○オール福島の願いく先の見えない復興・復興を国の責任で早急に解決すること、その責任は国民一人ひとりが我がこととして認識する必要があること。

○原発の安全神話は完全に崩れたこと、今後のエネルギー政策の在り方について、国民は一人ひとりが原発事故からの教訓を明確にする

こと。  
 ○新潟にも原発があるので、地震、津波等の防災だけでなく、原発事故への対応が新潟市でも必要なこと。

2011年3月11日 あの日 富岡の町はお大きく揺れ

富岡の海は大きくうねり 私達の大切な故郷の時間がとまりました。

2011平成23年3月12日 原子力発電所の原子炉が爆発し

富岡の町は 見えない放射能に包まれた 私達の大切な故郷の時間がとまりました。

私達の故郷 富岡町は 空が青くて 風が優しくて

海はどこまでも広がって 水平線から 太陽が昇りました。

富岡漁港からは ろうそく岩が見えました

夜の森の桜はいっぱい咲いて 春になると みんな 上を向いて歩きました 富岡川では 鮎を釣り じいちゃんがから揚げにしてくれました

～ 2012年3月11日 富岡第一小 第二小 第一中 第二中 児童・生徒・のメッセージより～

象は福島県で生産される農林水産物。消費者への正確な情報提供、県の諸生産物への影響掌握を目的としてすでに11万件を分析、職員16名で対応。  
 一番の問題は機械で分析できない「風評被害」とのことでした。

1年

後の富岡町児童、生徒からのメッセージ(上段四角内)が、すべてを物語っていると思います。



## 第六回写真教室

文化部会

平成26年7月6日(日)坂井輪コミュニティセンターにおいて、講師田中栄司氏(新潟フジカラーフォト企画課課長)により文化部会主催の写真教室が開催されました。



### 第一部「優れた作品から学ぶ」

いろいろなコンクールで高く評価された作品を鑑賞しながら、具体的に講師からどういう所がすぐれているか、スナップ写真の夜空に広がる花火・可愛い孫子・大切な娘の嫁ぐ姿・各地の素晴らしい風景・地域のイベント等で解説をして戴きました。

「満足」できる作品作りに一歩近づく早道は、優れた作品にたくさん触れる事と教わりました。

### 第二部「自己流からの脱皮を目指して」

シャッターを押すことに満足せず、今一度基本から「構図」「カメラの構え方」などから、絞り・シャッタースピードの関係、適正露出、被写界深度、シャッタースピード、構図等の説明を資料を使って説明をいただきました。



## 「こま回し・はねつき大会」

青少年健全育成部会



平成26年7月12日(土)に、まさご体験教室「こま回し・はねつき大会」を真砂小学校体育館にて開催、115名の参加がありました。

「こま」または「羽子板」を選んでもらい、色付けした後は自由に、またはトーナメント大会で大いに盛り上がりました。地域の方々の指導だけではなく、昨年のイベントで既に腕を磨いているこどもたちが、今回初めてのお友だちに教える姿もみられ、多くの世代交流が進んだ一日でした。



世代交流の集い

「子供たちと遊び隊」

福祉部会

8月20日(水)「子供たちと遊び隊」を開催、参加者は高齢者34名小学生59名計93名でした。

この事業は高齢者が子どもの頃の遊びを通じて子供たちとふれあい、昔からの遊びを伝承するとともに高齢者の生きがいづくりの場とすることを目的としています。

概ね60歳以上の方々と小学一年生～四年生(真砂ひまわりクラブを含む)を対象としておこないました。



り紙・将棋・五目並べと希望するゲームに分かれて楽しみました。

主に高齢者の方から指導してもらいながらも中には真剣に勝負をしている場面もあり、小学生からも高齢者からもとっても楽しかったとの声がたくさん聞かれました、お菓子のおみやげを頂いて楽しい半日を過ごしました。

前半は新発田あやめマジッククラブ会長の若桑利男様からマジックを見せてもらったり、教えてもらったりしながら謎解きに挑戦しました。子供たちが高齢者にやってみせる場面が多々ありとても微笑ましく感じました。

後半はお手玉・あやとり・おはじき・メンコ・折り紙・将棋・五目並べと希望するゲームに分かれて楽しみました。

防犯パトロール 交通安全・防犯部会

8月2日(土)第一回防犯パトロールを実施、海水浴の人たちが多くきていて、ゆうやけこぼり前もやはり人が多く出ていました。夏休み始めの土曜日はキャンプの家族が多く、年に一度は子供達・奥さんに家族サービスが必要なのではないのかな・・・

怪我防止のために海岸クリーナーカーがもっと多く必要と思われました。

8月9日(土)第二回防犯パトロールを実施。この日は夕日コンサー



トが行われていました。あいにくの雨模様でしたが、会場には思ったより多くの若者達が集まっていて、雨にも負けず砂の上ですわって楽しそうに視聴していました。新潟市長も来場していて盛大に行われていました。一時間で二回のパトロールをしました。

編集後記

今年、新会長・新副会長が就任されました、内容は災害に関する事・コミ協研修会・福島郡山への避難所視察等の記事です、また各部会より多くの寄稿をお寄せ頂き感謝申し上げます。次号の発行は来年3月に予定していますので多くの寄稿をお待ちしております。